

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	チャイヤブーン		前走ひまわり賞はA2で4着とはいえ、7頭立ての話。字面の戦績、鞍上の森騎手で地味に売れているが、水沢時代の実績からここでは力不足の可能性大。		
2	2	スプリングマン		行き切れないと自分からレースをやめてしまうので近走の大敗は仕方がない。今回は距離が伸びる分、行き切れるかもしれないが、2周目の向上面から後続勢が動き出すのでそこでお役御免だろう。		
3	3	ゴールドパテック	△1	川崎2100mで行われた関東オークスの2着馬。しかも中身の濃い競馬だった。関東オークスで本馬から1.8秒も離れたミスマンミアは黒潮盃で3着（勝ち馬クロスケから1.6秒差）に好走。ミスマンミアを基準に考えるならクロスケと同等の能力があると判断していいだろう。		
	4	ムシカリ	○	前走芙蓉賞は勝ち馬トキノバイレーツから0.9秒ほど離されての2着。完敗と言えば完敗だが、3着以下には大差をつけており、例年なら本馬が大差勝ちしていたレースだろう。競馬でよくある「断然人気馬と勝負付けが済みかつ未対戦の馬に人気の流れで人気を落とす」という典型的な美味いバターンだ。		
4	5	トーセンブル		2歳時から馬体重に変化がなく、成長が感じられない。直線の長いコースの方がより持ち味が生きるタイプで、川崎2100mにも合わないのでは。		
	6	クロスケ	▲	前走黒潮盃ではジャパントートターピー4着のクリスタルシルバーと一騎打ちを演じて勝利。クラシックではわき役に回ったが、その鬱憤を晴らすかのような快勝だった。ここに来て一段と力をつけており、オッズがトキノバイレーツとの2強状態になるのは仕方がないだろう。		
5	7	トキノバイレーツ	◎	転入初戦の芙蓉賞の勝ち時計は2分10秒6はどうかとも異常。過去の戸塚記念の走破時計を考えても、芙蓉賞だけ走れば、ついてこれる馬はいないはず。ダート戦において時計は一定の目安になり、馬自身の癖もないので走破時計、前走のパフォーマンスを素直に信頼していいはずだ。		過去の戸塚記念の走破時計を考えて
	8	デイジーカーニバル	×2	良くも悪くもヘニーヒューズ産駒で川崎2100mのロングスパート戦に合うとは思えないが、3走前のブルーバードカップのパフォーマンスが逸脱。2走前の東京湾カップはアクシデント、前走の黒潮盃は初の右回りと言いつつ敗戦で、再度左回りに替わって見直す余地はあるか。		
6	9	ミスターバッハ		前走芙蓉賞ではトキノバイレーツ、ムシカリから大きく離されての3着。今回はメンバーレベルが一段と上り、掲示板に入るのも難しいだろう。		
	10	ワンダーツーツ	×1	正直、距離が伸びてプラスになるとは思えないが、前走黒潮盃は早めに動いた分の負け。鞍上が左海騎手なので再度積極的な騎乗をしようだが、勝ちに行かず、着を拾いに行くような競馬をすれば、3着争いには加わってもいいだろう。		
7	11	カットイン		近走でデイジーカーニバル、クレイジーアクセル、ミスターバッハに完敗している馬。重賞では荷が重いのは明らかだろう。		
	12	ミスマンミア	△3	一時期JRAのレースを使って調子を落としていたが、1戦ごとに内容が良化し、黒潮盃ではクロスケ、クリスタルシルバーに次ぐ3着。前の2頭が後続を引き離していたので漁夫の利的な3着だったが、今回も似たような展開になりそうで、後方でじっと脚を溜めていけば、最後の最後に3着上がれるかも。		
8	13	ビヨンドボーダーズ		前走芙蓉賞では勝ち馬トキノバイレーツから4.1秒も離されての大敗。キンシャサノキセキ×アグネスワールドという血統なので本馬にとって2100mは長すぎるのでは。		
	14	クレイジーアクセル	△2	ダート中長距離で一撃がよくあるローズインメイ産駒（サブノクロヒヨウ、サミットストーン、マイネルバイカ、ローズプリンスダムなど）。母父がサクラバクシンオーの分、ゴリゴリのスタミナタイプというわけではないが、とにかく中長距離戦でこの血統は怖い。		